なのはな通信

（仮　題）　第2号　1999.7

編集・発行
勤医会東葛看護専門学校
〒270-0174　千葉県流山市下花輪409
TEL 0471-58-9955　FAX 0471-59-7055
発行責任者　小澤　清子

基礎看護技術演習・2科一年生

学生が主人公の学校

学校長　石田　一宏

この四月十日、本校も五回目の入学式を迎えました。「本校は、まだ歴史の浅い学校ですが」というのを、ご挨拶の枕詞みたいにしておりましたが、五回目ともなると、やはり本校らしい雰囲気、校風のようなものが根づいてまいります。

「学生が主人公の学校」という言葉は、どこの学校でもいわれることかもしれませんが、名実ともにそのように在ることは決して生やさしいことではありません。まず、主人公になる学生たちが、自らの頭脳でものを考える習慣を身につけねばなりません。そのためには、第一にみんなで集まって頭を使う訓練をしなければならないのです。

「自分の頭で考える」というと、すぐひとりで黙って考えることを想像しがちですが、そうではありません。思考は、討論することを抜きにしては存在しません。ひとりで考えているといっても、「思い悩んでいる」程度のことが多いのです。ひとりで黙考できるということは、自分の中で討論できるということでもあります。ちなみに、弁証法という思考方法は、古代ギリシャの対論から生まれたのです。特に、今の若者は、対論や討論を通じて思考する訓練を充分に経験していません。ですから、本校で主人公になるために、学生のグループワークが重視されるのです。

新入生は、大概このグループワークに戸惑うのです。それまで、指示されることを行う行動様式、知識を覚えるという学習方法などにすっかり慣れてしまっていますから、違った意見や見解をぶっつけあって、結果を導きだすという思考過程は、当初はとてもしんどいのです。しかし、彼女・彼たちは、変化します。

若者は変化する可能性をもっていると、信じられる学校、これはすばらしいことだと思います。それが校風として根づいていってくれることを望んでいます。

今年は、在校生を代表してはじめて、自治会々長が挨拶しました。この自治会も、おしきせではなく、学生たちの討論を通じて生みだされたものです。「これからは、夢を共有する仲間です。いっしょに夢を実現するためにがんばりましょう」と、新入生に呼びかけています。今年もまた、新しい形で主人公たちが動きだした、といえる新鮮な毎日です。

１９９９年度教育活動

主な学校行事、教育活動は次の通りです。

1999年度教育活動（４月～７月）

	学校行事	1科1年(5期生)	1科2年(4期生)	1科3年(3期生)	2科1年(5期生)	2科2年(4期生)
4月	5日 始業 10日 第5回入学式 1科36名 2科36名 14日 防災訓練	15日 流山ウォッチング 27～28日 病院探検	16～17日 基礎Ⅲ実習 クラスゼミ合宿	19日 地域フィールド 発表	19～20日 1年2年合同 合宿研修	
5月		12日 病院探検発表 21日 地域患者訪問		6～6/25日 各論Ⅳ実習		24～10/8日 各論実習
6月	4日 第5回体育祭	10日 地域患者訪問 発表 28～30日 基礎Ⅰ実習	3日 生命活動発表 7～25日 各論Ⅰ実習	28～7/23日 各論Ⅴ実習	7日、14日、21日、28日 在宅看護婦 フィールド	
7月	2日 千葉県下看護 学校体育大会 24～8/23日 夏期休暇	19日 基礎Ⅰ実習 発表	23日 各論Ⅰ実習 ゼミナール		23日 在宅看護論 フィールド発表	

今後の予定（８月～３月）

	学校行事	1科1年(5期生)	1科2年(4期生)	1科3年(3期生)	2科1年(5期生)	2科2年(4期生)
8月	23日 始業・ 防災訓練					
9月			6～24日 各論Ⅱ実習			
10月	2～3日 第4回東葛祭	25～29日 基礎Ⅱ実習	12～29日 各論Ⅱ実習	5～9日 研修旅行	生命活動発表	18～22日研修旅行 研修旅行発表
11月	24日 県下看学生 研究発表会	基礎Ⅱ実習 発表	13日各論Ⅱ実習 ゼミナール 15～12/10日 各論Ⅲ実習	1～26日 総合実習	1～12日 基礎実習	各論 ゼミナール
12月	4日 第5回 ｷｬｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾚﾓﾆｰ 25～1/9日 冬期休暇 11日 2科推薦入学 試験			22日、24日 総合実習ゼミ		総合実習 20～21日 総合実習ゼミ
1月	7日 1科推薦 入学試験 10日 始業 28～29日 1科Ⅰ期 入学試験	24～2/11日 基礎Ⅲ実習	10～21日 各論Ⅲ実習		基礎実習 シンポジウム	
2月	4～5日 2科入学試験		地域 フィールド	27日看護婦国家 試験		27日 看護婦国家 試験
3月	4日 第3回卒業式 7～8日 1科Ⅱ期入学試験 18～4/2日 春期休暇	基礎Ⅲ実習 発表				

第5回入学式 在校生歓迎のことば

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

まず初めに私達の学校を紹介させていただきます。

今年で創立5年目になる勤医会東葛看護専門学校も昨年、ようやく学生自治会を設立することができ学生の意見、要望などをまとめ教職員と話し合うことにより、学生が主人公である学校づくりを進めることができるようになりました。みなさんもこれから学生自治会に入会することとなりますがよりよい学校生活を送るためにも、多くの意見、要望をおまちしております。

さて、みなさんはこの学校に入学するにあたり、今まで沢山勉強したことでしょう。その勉強も基礎とはなりますが、ここで学ぶ専門的な学びは、皆さんのあこがれである看護婦（士）になるための基礎ではありますが、生易しい学びではありません。みなさんもこれから臨床へ実習に出るわけですが、そこではみなさんがこれから学ぼうとしている専門的な知識がしっかり身についていないと患者さんにも、臨床にも負担をかけてしまい、危険をも伴ってしまうことになりかねません。しかし、学習や看護技術でつまづくことがあっても、みなさん自身にやる気がありさえすれば、先生方は夜遅くまでみなさんに付き合ってくれるはずです。また、できるかぎり私達学生もバックアップします。もし少しでもわからない、どうすればいいのだろうと思ったときは誰にでも質問、疑問を投げかけてください。無視する人は誰一人いないはずです。また学年をこえて広く交流することにより、学校自体、学生自治会といっしょによりよいものになり、楽しい学校生活を送れるはずです。

これからは夢を共有する仲間です。いっしょに夢を実現するために頑張りましょう。

学生自治会会長　清水　宣行

1999年度　自治会役員紹介

役　員

会　　長：清水宣行（1-2）
副 会 長：福野美由紀（1-3）
　　橋本麻由（2-2）磯野あいみ（2-1）
書　　記：蓮場隆代・吉田拓生（1-2）
会　　計：広瀬明子（2-2）
　　菅野桂子（1-2）
会計監査：小林久美子（1-3）

クラス自治会委員

1-1　高橋奈津子　加辺伸子　椛山樹里
1-3　木下あい
2-2　平井里実

クラス代表委員会

（クラス長）		（副クラス長）	
1-1	三上景子	1-1	天川美里　萩原剛
1-2	市川亜由美	1-2	南谷千寿子　富永淳子
1-3	藤木智恵	1-3	澤田三和
2-1	小笠原愛美	2-1	山田寛
2-2	伊藤和恵	2-1	大澤美栄子

ストップ戦争法、5.21集会にて

ドの学びから

1科Ⅲ期生は、二月十六日から十八日まで労働者（町工場、企業、自営業）公害（大気汚染、基地公害）高齢者のテーマ別に、東京民医連の各院所が受け入れ母体となり地域フィールドが行われました。これまで、病院で看護実習をする中で患者さんがどんな仕事をしているのか、どんな暮らしをしているのか尋ねたりしたことはあっても、患者さん宅に一緒に泊まり込んで生活を共にしたり、実際の現場での密着労働体験をしたりする事は初めての経験で、少し緊張しながらフィールドに臨みました。学生達がお世話になったのは東京民医連の各院所の患者さんや組合員、友の会の会員さん達でとても暖かく迎えてくれました。町工場では大田区の製作所に行き、労働実態を学んできました。その学びの内容を発表原稿を基に少し紹介したいと思います。

「大田区にあるS製作所に行って、まずショックだったのは4台ある機械の内まともな仕事をしていたのはたった1台だったということ。売り上げは4割も落ち、学生が実習した二月もまだ一つも仕事が来ないという状況でした。近所の町工場も見学させてもいましたが、機械が全く動いていない工場もあり、不況というのは知っていたが、まさかこれほどまでとは思っておらず、自分達の現状の認識の甘さに愕然とした。そんな中でも経営者の○氏は明るくそして信念を持って、どうして不況が起きているのか、構造不況のしくみについて話して下さり、どうすればそれを打開できるのか、町工場のネットワークや、町工場の生き残る道についてもドイツでの実践も含めて力強く語ってくれた。また、実際の作業も見学し、機械では調整できない一〇〇〇分の一㎜単位を求められる最先端の技術は職人の手作業で行われていること、それを支えているのが大田の町工場なんだと学ぶことが出来た。また、働くということは、お金を稼ぐためだけでなく、難しいことに挑戦してそれを乗り越えたときの感動を得たり、仕事を通して自分を成長することが出来る充実や自信が得られるのだということがわかった。働くことが生きていく上での心の支えにもなるのだと学んだ。」地域フィールドを終えてグループで学びを整理する中で、○氏が語ってくれた内容を自分達で再度徹底して学習し、以下のように発表しました。「円高で仕事が海外に出て行き、大田の町工場は仕事がない。納期

看護1科3年生（3回生）
地域フィールド

も短縮され単価も値切られ、町工場同士で競争させられている。バブル崩壊で不良債権を抱えた銀行が貸し渋りをして、町工場に資金を貸さずにいること、その為に倒産していること。所得減税といっても年収三〇〇から八〇〇万円の人たちにはかえって増税となること。消費税が導入されたり、医療費の負担が増加したことにより財布のひもがきつくなり、世の中のお金の流れが悪くなったこと。人が物を買わなければ、物を作る必要がなくなり町工場に仕事が益々来なくなること。しかも私達の税金が福祉や医療などの社会保障に充分に使われず、軍事費やゼネコンのための無駄な公共投資に使われていることなどがわかった。それらを学習していくうちに町工場を低賃金、不規則な労働時間に追いやっているのは、大企業の利益が最優先になってしまっている現状を許している政府に問題があると考えた。そうなってしまうのは大企業からの政治献金や議員の天下りの問題があり、お金で大企業と政府が結びついている実態があるからだ。私達も今回初めて政治や経済のしくみを深く勉強してみて、このようにお金持ちばかりが得をするような不平等な政治が行われていることを知った。そんな政治を行っている人たちを選挙で選んでいるのは私達なのだ。私達にも責任があると思う。私達も社会全体に目を向け責任ある一票を投じなければならないのだと学んだ。」また、発表会では、基地公害グループから日米安保条約、思いやり予算、新ガイドライン法案などが報告され、「日本は憲法で戦争の放棄をしたのに戦争の準備をしている。アメリカの基地や自衛隊はなくすべき。」「アメリカ軍への思いやり予算5兆円を町工場の技術を守るためやもっと、私達国民のために使って欲しい」「この社会はおかしいんだという人を増やしていかなければ。そのためにもこの地域フィールドで学び、その事を知った私達が広めていかなければならない。」という意見も出ました。

学生達は、この地域フィールドで患者さんを「生活と労働の視点で見る」ことを実践的に学んでこれたのではないかと思います。そこから、自分達の問題として考え、自分達の暮らしは政治、経済と密接に関係しているのだ、無関心ではいられないんだ。と学びました。社会を見る目が拡がった三年生。今後の学びが楽しみです。

（1科三年担任　下　紀子）

看護２科２年生（４回生）

基礎実習の学び

一年生の十一月に三週間の基礎実習を行った。学生は、准看護学校の実習の体験の中で実習は苦痛なものという思いがある。「この学校での実習は准看護学校の実習よりずっと良かった」と実習最終日に全員が声をそろえて言った。２科の基礎実習は、「基本的人権の擁護の立場に立つ」の命題に対して初めて臨床で学ぶものであり①患者に密着し事実の観察や訴えを正しく捉え医療の可能性を見いだす。②患者の事実の背景を深めるための生活史、病態を科学することを目的にまずは実践の精神で学生は挑戦する。

実習に入る前に基礎実習の「基礎」とは何かについて討論をした。「基礎」とは、「土台」「応用する上で基礎になるもの」「発展するもの」等、意見が出された。実習開始時は、緊張が強く「患者さんに密着する」といわれたが、何をどうやってやればいいのかわからない。しかし、密着することで、患者さんの思いや、願い、頑張りを知り、そこから、医療者がどうやって応援していけばいいのかグループで討論していった。「生活史」を知る。なぜ聞かなければならないのか疑問があった。しかし、実際に生まれてからどんな環境・社会情勢の中を過ごしてきたのか、どんな仕事をしてきたのかを聞いていくと、疾患の発症、病態の変化を捉え、つながりがあることがわかった。そして、患者の病態の厳しさ、そんな中でも頑張っている患者を知り、その頑張りをどう応援していくのかを考え、そこから看護が始まるのだと確信する。

実習終了後クラスシンポジウムで一人一人の事例をまとめ発表し学び合う実践を行った。まとめるまでの過程では、学生一人一人が自分と向き合い医療（看護）とはを患者さんからの事実の学びから考えていく。二事例から学生の学びを紹介する。

事例Ⅰ

脳梗塞後仮性球麻痺の進行から嚥下障害・構音障害になった八十二歳Ｔ氏は、今回嚥下障害から肺炎を起こし栄養状態が悪化しての入院であった。学生は、退院間近のＴ氏を受け持った。学生は、初めは「意志の疎通のできない患者」ととらえ、戸惑った。「生命活動」で脳と脳神経系統の学習を行い、脳と神経は発達するという学びを深めた。それを土台に病態を調べ、Ｔ氏の意志の伝達のできない苦痛が見えてくる。また、食は人間にとって楽しみであること、何より食べることは生きることである。Ｔ氏はそれが奪われている病態であることをつかむ。「元気になりたい。もっとはっきり話せるようになりたい」Ｔ氏の要求が見えてくる。会話をすることで、嚥下を回復することにもつながる。そして、食事前・中・後の目口の体操やアイスマッサージ、発語の練習が重要であると看護の可能性を見いだす。さらに、Ｔ氏自身が、なぜこの運動が必要かわかれば誤嚥を防ぐことができると考え啓蒙パンフレットを作成し応援する。Ｔ氏の実践的な頑張りやその中でともに学習し発展していく姿に感動する。

事例Ⅱ

十三年前からの糖尿病、現在三大合併症までに進行している六十九歳Ｓ氏は、二年前交通事故で脊髄損傷となる。Ｓ氏の病態、治療の具体的進行過程を学ぶことにより、糖尿病、廃用性症候群、低栄養の病態からＳ氏は常に感染の危険と背中合わせに生きていること、感染を起こすと生命の危機に陥る可能性があることがわかる。その為に、全身状態の観察や客観的データチェックの重要性、吸痰、口腔ケアーを行い、肺合併症

（７ページに続く）

2000年4月から よろしく

（左から深谷京子、生田知歩、机みどり）

私は、来年4月から教員として働く予定で、現在東京都立保健科学大学教員養成講座で学んでいます。

授業が始まって日は浅いのですが、事実をとらえる。対人間への援助、自らが問題を解決してゆく事などが強調されているように思います。その事をすでに学びの中心としている東葛看護専門学校で働ける事を励みにし、1年間学んでゆこうと思っています。

来年度から宜しくお願い致します。

（専任教員　深谷　京子）

4月から一年間の予定で、社会保険看護研修センター教員養成課程に通っています。

全国から集まった仲間と、「健康」、「環境」、「看護の専門性」について演習を行っています。あらためて、民医連医療が患者の立場に立っていることを確認する機会となっています。皆さんと共に学べる日を楽しみにしています。

（専任教員　生田　知歩）

初めまして。今年の4月に、船橋二和病院から東葛看護専門学校に移籍してきました。来年4月から教員として働く予定です。現在は、西船橋にある社会保険看護研修センターの教員養成課程で学んでいます。

研修センターでの学びは、決して楽なものではありません。しかし、クラスメートや講師、先生達との出会いは素晴しく、私の財産になっていくものだと思います。この1年間は、マイペースで、いろんな事を吸収していきたいと思います。よろしくお願いします。

（専任教員　机　みどり）

を予防すること、尿路感染を防ぐこと、イレウスを防ぐこと等看護が医療とつながっていくことを確信する。

基礎実習では、患者さんが自分の病気のことを知りたいと切実に思っていることがわかり、患者さんを応援する啓蒙活動の発表を行う。患者さんから「学生のもらったパンフレットは宝物のように大事にしている」との言葉に学生は感動する。そして、実践の中で自分達が学ぶことの意義をつかんでいく。シンポジウムでは学生の学びへの集中力が高まり、活発な意見交換が主体的にでてきた。学生の根底には、「良い医療が行いたい」という考えがある。そこに学びが結びつくとおのずと集団での学びが発展してくる。集団で学ぶというのは押つけでなく学ぶ要求として発展していくことを学ぶ。

（2科二年担任　松原　郁子）

学校通信のネーミング募集

第二号は、仮題「なのはな通信」で発行しました。年二回を目標に発行していきたいと思っています。

学生の皆さん、関係者の皆さま、次号までにふさわしいネーミングを待っています。締切は十月末とさせていただきます。

よろしく ごくろうさま

新任・退任教職員紹介

こんにちわ。みわだ　たつと申します。

わたしは四国の片隅の宇和島というところで生まれ、十八才まで宇和島の海と山をみて過ごしました。

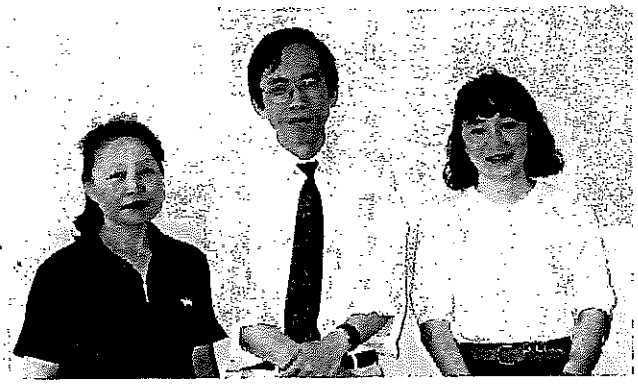
チェーホフという作家の研究家になるつもりでしたが、何故か卒論のテーマは「史的確物理の形成過程」。その頃は小難しい領分にハマッテしまい、ヘーゲルさんやマルクスさんの本ばかり読んでおりました。

三十才を過ぎて民医連と出会いました。当時の医療事務の仕事は残業にはじまり残業に終わる状態で、目の前の仕事だけが「勝負」でしたが、わたしは医療現場のくそリアリズムの世界がかなり気に入っておりました。

しかし、野田の診療所でも経験したのですが、お金がないために医者にかかれない人が世の中には大勢います。

目の前の患者さんとともに病気と格闘する看護婦を目指すとともに、病院にもかかれない多くの人々に思いを馳せることのできる看護婦の誕生を心から願っています。よろしくお願いします。

（事務長　三輪田　達）



（左から多田礼子、三輪田 達、豊田昌代）

五月一日より、東葛看学の事務に移動してきました。昨年六月に男児を出産し、育児休業していましたので、働くのが一年ぶりになります。家でのんびり過ごしていたためか、復職後しばらくは、なかなか世の中のテンポの早さについていけず『玉手箱をあけた浦島太郎』のようでしたが、近頃、ようやく世間の波に乗れるようになってきました。

民医連に入職して九年目になりますが、まだまだ学びの足りない未熟者です。子育てまっただ中で、皆さんに御迷惑をかけることも多々あるかと思いますが、共に学び、一緒に成長しながら仕事をしていこうと思っています。どうぞよろしくお願いします。

事務所に来ました折には、気軽に声をかけて下さい。

（新任事務員　豊田　昌代）

一九九七年十月に、右足首の骨を折ってしまい約四十七日後に、前任者の退職もあり、リハビリ勤務として看護学校に着任しました。当初は三ヶ月位という事でしたが、約一年半もいる事になって思い出も沢山出来て、仕事にも慣れてきた所で終了というのは、ちょっと寂しいのですが、お陰様で怪我の方は回復しました。

学生の皆さんの、希望に向かって進むキラキラと光る瞳がとても好きでした。そして多くの人のその素直さに、とても励まされました。「今日はあの人はいてくれるかな」と患者さんに探して貰える看護婦さんになって下さい。

ありがとうございました。

（退任事務員　多田　礼子）

編集後記

開校五年目をむかえ、学生達は元気に学んでいます。

1科一年生は病院探検・地域患者訪問から基礎Ⅰ実習へ、二年生は生命活動の学び・各論Ⅰ実習のまとめの最中、三年生は各論Ⅳ～Ⅴ実習中です。2科は四月初めの一年二年の合同合宿研修に始まり、一年生は在宅看護論フィールドの取り組み、二年生は五月中旬から各論実習中。この学習の中で、アメリカの戦争に日本を自動参戦させようという「日米新ガイドライン」の法案阻止にむけて学生と教職員で阻止学内実行委員会をつくり、昼休みや夕方「従軍看護婦」のビデオ学習会、阻止署名などに取り組みました。五・二十一集会には、学生・教職員二十七名が白衣で参加。「私達は戦争に行く為に看護学を学んでいるのでは無い」「白衣を血で汚さない」とシュプレヒコールで決意を示しました。この願いを国会の場でしっかり受け止めてほしいと思っています。

学校通信編集委員会
江島典子、二瓶幸子、小澤清子